れきぶん世界遺産講座

世界遺産と平和構築：長崎から世界へ

2018年11月3日(土)

11:00～12:00

会場：　長崎歴史文化博物館 1階ホール

講師：　日高健一郎（筑波大学名誉教授）

※聴講無料・事前申込み不要

世界遺産制度は、成立後46年を経て、登録数の増加とともに、多くの課題も抱えるようになった。人類共有の資産の保護という基盤精神に立ち返り、遺産を通じて平和な世界を結びつけるという理念の再認識が迫られている。22の世界遺産を保有する日本は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を通して、世界に対して何をどのように訴え、アジアや世界の「遺産」にいかに貢献すべきか、を今回の講演の主題としたい。「長崎から世界へ」向けた世界遺産の将来展望を論じる場合、核となるのは長崎が象徴する「平和」という理念である。
しかし、世界遺産と平和は、これまで必ずしも密接な関連をもって議論されてこなかった。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録は、この二つを結びつける重要な契機となるべきであり、日本という枠を超えて、長崎から世界に向けたメッセージを担う資産になると思われる。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を通して、世界遺産と平和の関係を、関係者および長崎県民の皆様とともに考えてみたい。

日高健一郎

大阪大学大学院国際公共政策研究科　招聘教授
筑波大学　名誉教授、
ミラノ工科大学　招聘教授、工学博士

1948　千葉県生まれ
1973　東京大学工学部建築学科卒業
1973～79　東京大学大学院工学研究科 修士課程、博士課程で西洋建築史を研究
1980　「フィラレーテの建築論に関する研究」（英文）で工学博士の学位取得
1975～77　イタリア政府給費留学生としてローマ大学建築学部でルネッサンス建築史を学ぶ
1979～81　日本学術振興会特別研究員
1981～84　豊橋技術科学大学建設工学系　助手
1984～2000　筑波大学芸術学系　講師・助教授(この間、日本学術振興会特定国派遣研究者として、イタリア学術振興会、在アテネ・イタリア考古学研究所で研究)
2000～2013　筑波大学人間総合科学研究科　教授
2013～16　東京芸術大学美術学部　客員教授
2016～現在　大阪大学大学院国際公共政策研究科　招聘教授
2017～現在　ミラノ工科大学都市・建築学部修士課程の招聘教授

■世界遺産関連の活動
2004　筑波大学大学院人間総合科学研究科に修士課程「世界遺産専攻」を開設、専攻長を務める
2006　同上の博士課程に「世界文化遺産学専攻」を開設し、専攻長を務める
2008　長崎教会堂群の世界遺産登録に関連するユネスコ見学ミッションにムニール・ブシュナキ氏と参加、あわせてシンポジウム「平和戦略としての世界遺産ガバナンス:世界遺産専門家会議　世界遺産国際シンポジウム」(長崎県教育委員会、筑波大学大学院世界文化遺産学専攻と共催)を開催
2008～現在　水戸市の専門委員として、「近世日本の教育遺産」世界遺産登録推進会議座長
2009～18　アンコール遺跡保存救済調整委員会（ICC）保存部会委員

■文化遺産保護関係の活動
1996～2016　イコモス日本国内委員会で会員およびISCARSAH担当委員
2006～2016　文化遺産国際協力コンソーシアム企画運営委員会委員

■海外学術調査・海外での講義
1990～2016　ハギアソフィア大聖堂総合学術調査団長として、トルコをはじめ、ヨルダン、シリア、チュニジア、リビア、ルーマニア、セルビアで調査を行い、関連してこれら各国、エジプト、イタリア、ギリシャの大学で講義を行った。
外務省中東一課リビア改革努力支援プログラムにより、旧リビア政府文化省、ガルユニス大学で講義、関連してシリアのアレッポ大学で世界遺産・文化遺産に関する講義を行った。カンボジア国立アプサラ機構では人材育成プログラムを実施した。

■受賞等
日本建築学会奨励賞（論文）（1989）、イタリア政府マルコポーロ賞（1992）、日本建築史学会賞（2005）、筑波大学ベスト・ファカルティーSS教員表彰（2011）

長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture
〒850-0007 長崎県長崎市立山１－１－１
TEL：095-818-8366　FAX:095-818-8407
http://www.nmhc.jp/